

平成 29 年度第 1 回横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会	
日 時	日時：平成 29 年 4 月 26 日（水）14 時 30 分～16 時 30 分
開催場所	横浜市庁舎 5 階 関係機関執務室
出席者	青木委員、井上委員、内海委員、川畑委員、合田委員、坂田委員、下嶋委員、竹谷委員、田高委員、中野委員、名和田委員、西尾委員、畑尻委員、福松委員、森本委員、山田委員、 （16 名）
欠席者	赤澤委員、佐伯委員、増田委員、米岡委員
開催形式	公開（傍聴者 1 名）
議 題	議事【議事 1】第 4 期 横浜市地域福祉保健計画の策定について 【議事 2】第 4 期 横浜市地域福祉保健計画策定にかかる分科会について 【議事 3】第 4 期 横浜市地域福祉保健計画の策定に向けた 関係団体ヒアリングについて 報告【報告 1】29 年度第 4 期横浜市地域福祉保健計画策定スケジュール及び 第 3 期横浜市地域福祉保健計画・区地域福祉保健計画推進スケジュールについて
決定事項	【議事 1】第 4 期市計画について原案・スケジュールについて、各委員の承認を得た。 【議事 2】第 4 期市計画にかかわる分科会設置（テーマ、メンバー、日程等）について、各委員から意見を聴取し、事務局案について、各委員の了承を得た。 【議事 3】第 4 期市計画策定に向けた関係団体ヒアリングについて各委員から意見を聴取し、対象委員及び対象団体について承認を得た。
議 事	開会 議事 【議事 1】第 4 期 横浜市地域福祉保健計画の策定について （事務局）資料 1、2 について説明、資料 3—1～7 は参考 （名和田委員長）第 4 期の策定をするにあたりスケジュールと関連する他計画や国の動き等の説明をいただきました。策定については昨年度の終わりの検討会でも議論しており、資料 1 の 2（2）エに一部追加がされました。我々として承知していることですがここで確認されたということです。御質問はありますか。国の動向の関係で森本委員から御助言はありますでしょうか。 （森本委員）国の地域福祉計画の義務化はどのようにでてくるかまだわからないので、議事 1 に関しては、特に意見はありません。 （名和田委員長）他の自治体からは、地域福祉計画が他のいろいろな福祉関係の計画の上位計画になると聞いたのですが、横浜市の場合は第 3 期でも資料 2 裏面にあるように上位計画というより多々な計画に横串をさすような計画として整理されています。そのように理解してよいでしょうか。 （森本委員）いろいろな個別の計画を実施していく上でどの分野でも地域住民のインフォーマルな取組が重要になっています。それがないとどの計画も動かしにくくなっている中、それぞれの計画で地域の見守りや活動を規定するのは縦割り過ぎるので、

地域単位でどのような活動をするべきか、どのような支援をするべきかを検討する方が現実的で理にかなっています。そのような意味で地域福祉計画がベースになる、もしくは全部の個別の縦割りの計画に網を掛ける形となって欲しいというのが国の法改正の趣旨だろうと思います。現実には、それぞれの自治体の経緯があるので、縦割りの中に個別に入れているところもあるし、既に福祉保健の全体の計画、或いは、自治体の長期計画の福祉部門のトップに地域福祉計画を位置づけているところもあるし、それぞれの自治体の考え方や実践の仕方によって決まっています。横浜市は既に行っている中身を大きく変えることはないと思います。

(名和田委員長) このスケジュールでいくということでしょうか。

(森本委員) 横浜市地域福祉保健計画が、具体的にどのように区計画・地区計画に参考にしてもらうかというこれまでの課題をきちんとやっていく方が大事になると思います。

(名和田委員長) 私も先週、三鷹市のシンポジウムに参加した時、三鷹市では別に地域ケアネットワークをやっていて、そこに地域包括ケアが入りやや混乱しているようですが、三鷹市は三鷹市のやり方でやればよいということ。横浜市もそれで良いのだと思います。

横浜市では、区は全市計画をあまり見ないでやっている感じがありましたが、今回、市から区にヒアリングをしていただき区計画との関係は大分風通しが良くなったと思います。

是非このスケジュールでこの1年間行いたいので、御了承いただいたということですのでどうぞよろしくお願い致します。では、この辺で実質上の議論は、次の議事2で行えればと思います。

(一同) 了承

【議事2】第4期 横浜市地域福祉保健計画策定にかかる分科会について

(事務局) 資料4について説明

(名和田委員長) 第4期計画では分科会をふたつ作るという案が検討会でも出されていましたが、最終的にこのような体制でということによって御意見、御質問等がありますか。所属の分科会1・2に関係なくご意見を頂きたいです。

(中野委員) (分科会1) 「多様な主体の参加」を考える時に、地区社協や地域で活躍している方に声掛けするのもよいのですが、この頃目を付けたいと思っているのは、介護保険も2000年から始まり月日が経ってしまいましたが、NPOで介護保険に活動してきた方達も高齢化してきています。その方達は、ノウハウもあり地域でのお付き合いの方法も知っている方なので、多様な主体の中には是非、介護保険に携わっていて能力のある方々にどうやって声をかけて誘おうか工夫しているところでもあります。

(内海委員) (分科会2) 分科会1について日頃感じていることですが、地域福祉計画は、地域が高齢化した時代のまちづくりの推進の意味合いが強まっていますが、「分野をつなぐ」という「分野」は、例えば、男性だとサロンを作ってもなかなか利用者に

はならない、福祉には自分は関係無いという認識が取り払われないことが課題となっています。「分野をつなぐ」という意味は、分野に捕らわれない幅広い入り口を作り、出口が福祉に繋がる取組が大事だと思います。「多様な主体の参加と連携」は、具体的に定義しないとなかなか担い手は現れません。例えば、里山の団体がそこで採れた小麦を使ってうどん打ち講座をケアプラザで行っているという事例は、区レベルではたくさんあります。結局、里山保全の団体も地域福祉の推進をやっているということです。南区の野外サロン等では、未利用の宅地を使って耕すという活動に人と話すのは苦手な人が「それならできる」と参加して、参加しているうちにだんだん元気になり、人との繋がりができ地域活動の中心人物になった例もあります。そのように、「多様な主体」と言っても、具体的にどこまで広げられるか、特に男性は福祉に腰が引けるケースが多いので、あまり福祉の分野に捕らわれない取組の工夫が大事だと感じています。

(竹谷委員) (分科会1) 分科会2の最初の予定には、「国の動き」や「横浜市の状況」の説明がありますが、分科会1もこの部分が必要だと思います。何故かという、いただいたデータの意識調査の中に、この10年間で不安が広がっており、「不安がない」の回答は10%にまで低下しています。近くの高齢者に話を聞くと、「これからは在宅ケアの方向という国の動向があり、我々はどうしたらよいかと先がみえず不安」「協力したいが、何にどれくらい人がいるのかよく分からない」等の声があります。市では、100～200人のシニアサポーター育成を始めていますが、具体的にどのくらい要求され、どのように地域と連携してやればよいか等、今からつくる計画も大事ですが、既にわかっている量的に補充が必要な部分はどんどん進めなくてははいけません。しかしそこがよくわからないので、横浜市の将来について、要支援の方、必要なサポーターの人数等、計画策定の前、分科会の最初に周辺情報を教えて欲しいです。

(事務局) いただいた御意見を参考に、今回、ご説明はしませんでした。資料3-6等、2025年にどの程度要介護認定の方が増えるか等の将来推計を含めて、分科会の初回にデータをお示ししたいと思います。

(畑尻委員) (分科会1) 私は、自治会町内会関係で参加させていただいております。福祉に詳しくないですが、分科会1の支えあい・地域づくりを考えますと、人々が地域活動に参加することは健康づくりにもつながるので、誘うこと・選択肢が多いことが大事だと考えます。現場としては、どこも同じだと思いますが、担い手がない、特に自治会町内会は会長・役員のみ手がないことが大きな問題であります。そこで、高齢者対策等は介護保険の制度が変わって勉強会を開催する場合、連携することが大事だと感じています。例えば地域ケアプラザも連絡すればすぐに来てくれるし、区役所の人もお休みの日でも参加してくれています。まず人が集まらないと話にならないので、この委員会に参加させていただいて福祉を勉強しながら地域づくりをしていきたいと楽しみにしております。

(名和田委員長) 担い手がないとさんざん言われているのですが、この辺でなんとか

しないと、地域福祉保健計画を切り口に地域参加が広がると非常に良いと自分の経験から感じています。

(井上委員) (分科会1) 障害の当事者として常々思っているのは、ここにも書いてありますが、自分から発信してくれない、関わりを持たない、なんとかして皆と仲良くしようと考えていても発信しない等、引きこもりになる事が多く、その方をなんとか引っ張り出したくても担い手の数がたりません。一人ひとりのサポートができれば一番よいのですが、例えば少し動ける方でもグランドゴルフをやるとなると一人を3人がサポートしないとできないわけで、引きこもり、孤立している方の相談相手になれるチャンスもなかなかできず、模索している状態であります。

(名和田委員長) 分科会で是非、その観点で御議論をしていただければと思います。

(森本委員) (分科会1) 両方の分科会に共通して、それぞれの切り口で検討していく必要がある問題があります。それは、地域の人たちのグループ等、自主的な活動、特に見守りやインフォーマルな支援をしていく中、専門家に引き受けて貰いたい部分が見えないとずっとやらなくてはいけない負担感が強くなってしまいます。また、多くの自治体で見守りグループを作ったあと、そのままにしてしまうと疲弊してしまいます。例えば、ごみ屋敷の問題等や個人の家庭内の問題を抱えてしまうと、誰にも引き取ってもらえず、責任感がある人ほど疲れてしまっているのを見かけます。分科会1では、それを「もうだめ」になる手前で専門職、社協、役所がどのように引き受けるか、分科会2の個別の支援の中で、誰がどこに持っていき相談するか等、仕組みや体制を検討していく必要があります。最終的に住民の暮らしや生活に責任を持つのは、自治体や社協なので、その辺りの覚悟を含めて引き取り手をはっきりさせないと地域の人にも信用してもらえません。

(名和田委員長) ありがとうございます。重要な視点だと思います。協働という政策理念が盛んになった頃から皆が気にしているところだと思います。今回、検討体制として専門で臨時委員等にかかり入っていただけるのでその辺を特に留意して検討していけるようにしたいと思います。

(山田委員) (分科会2) 分科会1も2も切り離せないと前回は話しました。西区で地域子育て拠点ができ8年になり、地域の担い手の高齢化を実感しています。地域の主任児童委員、民生委員、更生保護女性会の女性が頑張って15年近く子育てサロンをやっていましたが、昨年あたりから担い手が高齢化してきたのでサロンを閉じたといくつかから相談があります。親子の居場所が少なくなっていることに対して拠点は何ができるか区役所と社協と考えているのですが、「新しい人材を育ててこなかった」ということ、今の30~40代の現役のお母さん方が、現在担い手となっている70~90代の方といきなり同じようにやるのは難しいという現実の課題に直面しているところです。森本先生がおっしゃったように、地域がどこまで関わっていけばよいか、特に拠点にいると複合的な課題をもつ家庭への支援が多くなっており、地域の見守りと拠点の中間支援的な部分とそれでもどうにもならないと保健師に上手につなぐという地域と行政・専門職をつなげる中間支援、コーディネーターが

できる人、ワンストップでいかに繋げられるキーパーソンが育てられるかが地域の課題なのでそこを一緒に勉強できればと思っています。

(竹谷委員) (分科会1) 先ほど森本先生もおっしゃっていたように、サポートする時の切れ目が難しいと思います。以前認知症の方のサポートをした時、かなり重症になってから民生委員にバトンタッチしたため、その方は新しい民生委員を認知できず、夜中でも私の所に電話がかかって来る等、切れ目を作るのが難しくプロとアマの自覚が必要でした。病気の世界ではプロとアマの差ははっきりしていますが、実際の介護の見守りはプロとアマがはっきりしていないため、認知症の方とお金の問題でトラブルになったりすることが多々あります。実際にサポートする時の切れ目をそろそろ考える必要があるという気がしています。地方自治体によっては、市長の認可がある人でないと主になってお世話を出来ないところもあると聞いています。

(青木委員) (分科会2) 横浜市では、この12月1日に4,000人が民生委員の委嘱を受けました。その3分の1が新しい人ですが、新しい人と民生委員の仕事をお互い勉強しなくてははいけません。民生委員は地域の代表でありプロではありません。民生委員も認知症を勉強してという段階にもあるようにも言われていますが、民生委員は基本、プロである行政に出来るだけ早く知らせるという住民のつなぎ役です。守秘義務をもって活動していますが、実際、支援をする人は見えにくいものがあります。貧困が見えず、子ども食堂等の活動が各地区で行われることによって、貧困が見えてしまうという実態もあります。民生委員の立場はつなぎ役、金銭に伴う支援には関わらないということを各民生委員に徹底して活動をしています。分科会2のテーマは非常に難しいと思いますが、横浜市の状況を聞いて勉強させていただきたいと思っています。

(下嶋委員) (分科会2) 厚生労働省では、施設から地域への流れを進めていますが、気になった動きとして「やまゆり園」で施設をそのまま同じ場所に建て替えることは「ノーマライゼーションの大きな流れに反する」のではないかとご意見が出て、神奈川県も逡巡された経緯があり、施設利用の御家族と厚労省キャンペーンと温度差があります。

畑尻委員がおっしゃったように、今、地域は、自治会町内会に入る方も低迷し役員のなり手の希望者も少ない状況です。除夜の鐘がうるさい、保育園反対などの市民の声もある世の中、厚生労働省は「施設から地域へ」と打出していますが、それを地域が受け止めるキャパシティがあるのか問題はあります。

今日は、当委員会に傍聴に来てくださった方もいます。私は、多くの方に委員会を傍聴して頂けると、より活性化したいと思います。「施設から地域へ」ということで、各自治会町内会をはじめ大勢の人に担い手としてご活躍いただくには、委員会で議論したことを開示するだけでなく、方策をもうひと工夫しないといけないと思われまます。

神奈川県「やまゆり園」再建は止めて、小さいグループホームをたくさん作ればよい等、意見としては良いが、地域にその受け入れ能力があるのか、自治会・民生

委員が頑張っで地域でやっでくださいと名指しされてもそのような余裕はありません。それを打破するには、皆で支えて地域活性化するしかないと思います。私は、分科会2グループです。「支援を必要とする人の社会的孤立」を金銭的な議論だけでなく、精神的に生きる支え等幅広い視点で議論させていただきたいと思います。

(名和田委員長) 分科会で議論することがたくさん出てきました。今日の議論を活かした分科会の資料をもらいたいと思います。

(田高委員) (第2分科会) 今回の計画策定の基本的な考え方で、人口減少の急速な進行を踏まえると、分科会1では「地域づくり」、分科会2では「仕組みづくり」を検討すべきだと思います。そのひとつに当然、担い手づくりが出て来ますが、人口減少が進む中、一人ひとりの能力、資質、支援性をいかに高めるかを考えるしか方法はないと思います。例えば、自助・共助・公助の役割毎に必要な能力、資質等、当事者も含めて「人づくり」をどうしていくかが計画の中に少しでも見えてくる形にすることも大事だと感じました。

(名和田委員長) それでは、他に意見がなければ、この議事は終わりにしたいと思います。この資料4で示されました事務局の意図する内容を皆様方で御議論いただいたということで、ふたつの分科会を進めていくことでよろしいでしょうか。

(一同) 了承

【議事3】第4期 横浜市地域福祉保健計画の策定に向けた関係団体ヒアリングについて
(事務局) 資料5について説明

(名和田委員長) ヒアリングを計画策定に活かしていくことは常道であり非常に重要であります。団体代表で委員になられている方がかなりいらっしゃるので、先ずはその観点から御質問や御意見がありましたらお願い致します。

(森本委員) ヒアリング先リストのどこかに入っているかもしれませんが、サービスを提供する側、ケアマネージャー、ホームヘルパー、障害の施設の人等、地域福祉には何処が整備されるとやりやすくなるのかを、また、住宅関係の供給公社、団地自治会等、住宅や団地を多く持っている所で現在起きていることを聞くと良いと思われれます。

(事務局) 団体案を出させていただきましたが、御意見を受けて追加も考えさせていただきます。

(名和田委員長) 私も都市建築関係の園田真理子先生に居住福祉について「建築と福祉が一体化しないとダメ」という話を伺い地域福祉にその観点が必要だと感じました。森本先生の1番目の件は、社会福祉法人や社会困窮関連の施設は入っていますが、実際にサービスを提供している人が地域福祉とどのような連携ができるか等、マンパワーの問題もあるのであまりヒアリング対象を増やせないとは思いますが、もし、項目として増やせないのなら、施設系のヒアリングの時にそのような観点を入れる等、工夫していただきたいと思います。

第3期計画で地域福祉の裾野を広げるために、学校と企業が言われましたが、今回、学校はまだ入っていませんが企業は入っています。企業は、ヒアリングの対象

には入れないのですか。

(事務局) 企業に関しては資料5 NO.16に入っています。

(内海委員) 地域レベルでは、「横浜型地域貢献企業」が地域や区域でいろいろな所で関わりを持ち始めているので、地域福祉に係るヒアリング等についてはそちらの方が大きいかと思います。

各分野の団体に「地域あるいは地域福祉に関わりを持っているか」「認識がどの程度あるのか」を、ヒアリングの中で聞いていただきたいと思います。

(名和田委員長) 企業でも様々あり、地域福祉の観点から企業選定する必要があるかと思います。

(坂田委員) ヒアリング先の障害者団体で、知的障害者当事者団体とありますが、本日、第3期障害者プランの見直しで2回目の当事者ヒアリングがありました(全5回)。是非、地域福祉保健計画でも当事者の意見を聞いていただきたいと思います。日曜日なら来られるという方も多いので配慮をお願いしたいです。

(事務局) 現在、障害部と、お互いに計画の策定・見直しをしていく上で情報共有の調整をしているところです。

(西尾委員) ヒアリングの対象を幅広くバランスをとって選んでいただいています。団体施設が対象ということで、地域福祉を考えると、個人と個人の暮らしの中で地域社会があり大きな社会があります。団体で仕事をしていますが、個人の生活で困難を抱えている場合もありますし、プライベートに踏み込めないところもあるかと思いますが、その方の生活や思いも含めて当事者の方はそのようなところが中心になると思われます。担い手や支え手は、団体や施設の働きが中心になるだろうと思われます。個人と団体、社会の働きをつなぐような項目について伺ってもらえるように、地域の方が担う部分と専門職、行政が担う部分の連携で何かヒントが得られるだろうと思われます。

(名和田委員長) 事前のヒアリング表に基づいてというものなので、ヒアリング表を作る際にその観点を加味していただけると良いかと思います。

(中野委員) 先ほど森本先生がおっしゃったサービス提供側の観点が良いと思い、是非付け加えていただきたいことがあります。放課後等デイサービスが現在、増えていますが、障害のあるお子様の放課後支援の受け皿となる団体が少なく、団体だけではやり切れないので地域の方のお手伝いやまなざしもいただいているので「放課後等デイサービス」もヒアリングの対象として検討していただきたいです。

(名和田委員長) 最近の重要課題が出てきています。

(事務局) 検討させていただきます。

(森本委員) 障害で3障害当事者があるが、高齢者は老人クラブしかなくて、若年性認知症の方等、介護サービスを受けている人というの必要かもしれません。地域で認知症の方をどのように理解してもらえるかが重要で、認知症の会の人、仕事で困っている若年性の人等、住んでいる地域でどのように理解してもらいたいのか、この計画に盛り込んでいけたらと思います。

	<p>(名和田委員長) 漸増になりますが、事務局で工夫、検討をお願いいたします。</p> <p>(山田委員) 坂田委員もおっしゃったプランを策定している障害の分野で、各区の自立支援協議会は放課後デイサービスともつながっていますし、基幹相談支援センターや地域活動ホームもあります。また、当事者、支援者、相談窓口、ケアプラザもいるので、聞きやすく繋がるという意味では有効だと思われます。</p> <p>(名和田委員長) 総括をしますと、皆さんの意見を十分踏まえて一石二鳥的なやり方でヒアリング対象を選んで、なるべく本日出た意見に答えられるような形にさせていただきたいと思います。</p> <p>ここで、事務局提案の委員がいるヒアリング先について、各委員には原則的に受けていただくということによろしいでしょうか。</p> <p>(一同) 了解</p> <p>(名和田委員長) 本日、いろいろと意見をいただきましたが、今後、分科会で十分議論をいただきたいと思います。</p> <p>【報告1】29年度第4期横浜市地域福祉保健計画策定スケジュール及び第3期横浜市地域福祉保健計画・区地域福祉保健計画推進スケジュールについて</p> <p>(事務局) 資料6、7、8について説明</p> <p>(名和田委員長) 何か、御質問、御意見はございますか。3期計画は、区ではやっている真最中であることもお見知りおきください。これから分科会に分かれていきますので、各分科会で議論いただいた内容は、全体の検討会で共有していきたいと思えます。特に御意見がなければ、本日の議事は終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。皆さん、御協力ありがとうございました。</p> <p>閉会</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>○平成 29 年度第 1 回横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 次第</p> <p>○横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員名簿・事務局名簿 ※</p> <p>○第 4 期横浜市地域福祉保健計画の策定について <資料 1 ></p> <p>○資料 1 補足資料について <資料 2 ></p> <p>○横浜市をとりまく状況について <資料 3 - 1 ></p> <p>○社会福祉法人における地域貢献について <資料 3 - 2 ></p> <p>○「地域共生社会」の実現に向けて <資料 3 - 3 ></p> <p>○地域福祉保健計画に関する区意見交換会まとめ <資料 3 - 4 ></p> <p>○生活困窮者自立支援制度の動向について <資料 3 - 5 ></p> <p>○横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた行動指針について <資料 3 - 6 ></p> <p>○いわゆる「ごみ屋敷」対策について <資料 3 - 7 ></p> <p>○第 4 期 横浜市地域福祉保健計画策定にかかる分科会について <資料 4 ></p> <p>○第 4 期 横浜市地域福祉保健計画の策定に向けた関係団体ヒアリングについて <資料 5 ></p> <p>○平成 29 年度 第 4 期横浜市地域福祉保健計画策定スケジュール <資料 6 ></p> <p>○平成 29 年度 第 3 期横浜市地域福祉保健計画推進スケジュール <資料 7 ></p>

	<p>○平成 29 年度 第 3 期区地域福祉保健計画推進スケジュール</p> <p>○横浜市社会福祉協議会広報誌「福祉よこはま」※</p>	<p><資料 8 ></p> <p>(※当日配布資料)</p>
--	--	---------------------------------------